

氏名	浅井 宏美	部署	看護学科	職名	講師
研究分野	母性看護学、助産学				
学位	博士(看護学)				
学歴	2008年聖路加看護大学大学院看護学研究科博士前期課程修了 2015年聖路加国際大学大学院看護学研究科博士後期課程修了				
経歴	2008年～首都大学東京健康福祉学部看護学科助教、2010年～聖路加看護大学看護学部助教、 2015年～埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科講師				
所属学会(役職)	日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本新生児看護学会、 日本小児看護学会、日本生殖看護学会				

【2016年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了 ページ (3)学会名、開催都市	(1)2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	助産師基礎教育テキスト 2017年度版 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児 期のケア	共著	日本看護協会出版会, p.185-204(15頁)	浅井宏美、江藤宏美 著, 他11名 横尾京 子編	2017.2
2					
3					
(2) 論文					
1	周産期におけるファミリーセンタードケア; 治療やケア方針の決定における家族参加	単著	周産期医学, 47(1), 93- 93, 2017-1	浅井宏美	
2					
3					
(3) 学会発表					
1	文献レビュー: 早産児または低出生体重 児におけるドナー母乳の効果	共著	第26回日本新生児看護 学会、大阪	浅井宏美、井上みゆ き	2016.12
3					
(4) その他					
1	該当なし				
2					
3					
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究 B)	e-learningおよびピアサポートを活用した周産期 看護職の教育プログラムの開発(研究代表者)			2016.4～2016.12
2					
3					
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					
1	ハイリスク周産期	2016.4～2016.7	4年次助産系履修学生を対象に、ハイリスク新生児とハイリスク妊産婦への看護の 実際について講義した。実際の事例紹介や病棟内でのケアの画像、映像などを教材とし て活用し、実際の看護について理解が深められた。		
2	周産期のケア	2016.10～2016.12	3年次助産系履修学生を対象に、妊娠期の心理社会的変化や日常生活へのケアにつ いて講義した。事例を活用したDVD教材の視聴、ガイドラインを用いてエビデンスのあ るケアについて説明し、妊婦への看護について理解が深められた。		
3	母性看護学Ⅲ	2016.11～2016.12	2年次生を対象に、新生児の基本的な観察方法アセスメント、看護技術について講義 した。新生児の実際の映像やモデル人形を活用し、理解が深まるよう工夫した。		
(2) 演習					
1	分娩期のケア	2015.4～2015.7	分娩助産技術のデモンストレーションを行った上で、小グループに分かれて学生自身 の介助技術に関する個別の指導やグループ毎の分娩期の看護に関する演習を実施 した。		
2					
3					

(3) 実習			
1	母性看護学実習	2016.5～2016.7	3年次生を対象に、産婦人科病棟において1週間×4クールの臨地実習指導を行い、概ね期待した学習効果を上げることができた。
2	総合実習(母性看護学領域)	2016.7	4年次生を対象に産婦人科病棟において1週間の事前事後学習、3週間の臨地実習指導を行い、4年次の実習目標を達成し、期待した学習効果を上げることができた。
3	助産学実習Ⅱ	2016.8～2016.10	4年次助産系履修学生2名を実習施設担当教員として担当し、6週間+補習実習でほぼ7週間の臨地実習指導を行い、産婦に対する分娩進行状況のアセスメントとケア、分娩介助技術について期待していた実習目標を達成することができた。
4	IPW実習	2016.10	学生5名を施設担当教員として担当し、施設ファシリテーターと共に実習指導を行い、チーム形成や対象者との関係構築など期待した学習効果を上げることができた。
(4) 論文指導			
1	学部生の卒業研究	2016.4～2016.12	看護学科4年次生4名の卒業研究の指導をゼミ形式や個別指導にてを行い、期待していた成果を出すことができた。
2			
3			
(5) その他			
1	学年担任としての学修・就職支援	2016.4～2016.12	1年次生の担任として、ガイダンスや個別面談などの学修支援、就職支援活動を行った。
2			
3			
4. 社会貢献活動			
(1) 講演会、研修会等の講師			
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ
1	産科看護職対象の専門職講座	看護学科 母性看護・助産学領域	県内の医療施設に勤務する産科看護職を対象とした産科医療保障制度に関する研修会の運営・準備。
2			
3			
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等			
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	一般社団法人 日本生殖看護学会	「日本生殖看護学会誌」専任査読委員	2015.9～現在
2	一般社団法人 日本助産学会	ガイドライン委員会 委員	2008.4～2016.3
3			
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
2			
3			
5. 学内運営(委員会委員)			
1	看護学科 就職支援プロジェクト委員会 委員		
2	看護学科 カリキュラム運営・検討委員会 委員		
3			
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		